U.S.Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 生産のモメンタムは一段と低下(06年11月鉱工業生産)

発表日：06年12月15日（金）

～自動車、木材、家具等で生産調整～

第一生命経済研究所　経済調査部
桂畑　誠治(かつらはた せいじ)
(03-5221-5001：seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産（Industrial Production and Capacity Utilization）

	鉱工業生産		製造業(NAICS)	鉱業	公益	ハイテク関連	除ハイテク関連	自動車関連	設備稼働率	製造業(NAICS)	生産能力
06/01	▲0.0	(+3.3)	+0.8	+1.9	▲8.4	+0.5	+0.8	+2.0	+81.1	+80.0	+0.2
06/02	+0.3	(+3.0)	▲0.2	▲0.1	+5.1	+0.8	▲0.3	▲1.3	+81.1	+79.7	+0.2
06/03	+0.5	(+3.6)	+0.5	+0.1	+1.7	+2.7	+0.3	+1.4	+81.4	+79.8	+0.2
06/04	+0.9	(+4.5)	+1.0	+1.2	▲0.1	+3.6	+0.8	▲0.0	+81.9	+80.4	+0.2
06/05	▲0.1	(+4.0)	▲0.2	+0.9	+0.3	+1.8	▲0.4	▲1.7	+81.7	+80.1	+0.2
06/06	+0.9	(+4.3)	+0.9	+0.4	+1.6	+1.6	+0.8	+2.1	+82.3	+80.6	+0.2
06/07	+0.4	(+4.7)	+0.4	▲0.1	+1.2	+1.7	+0.3	▲4.1	+82.4	+80.8	+0.2
06/08	+0.2	(+4.6)	+0.4	▲1.1	+0.0	+2.5	+0.2	+1.9	+82.4	+80.9	+0.2
06/09	▲0.4	(+5.9)	▲0.1	+0.9	▲4.1	+3.1	▲0.3	▲1.5	+82.0	+80.7	+0.2
06/10	+0.0	(+4.7)	▲0.6	+0.4	+4.3	+1.8	▲0.7	▲3.4	+81.8	+80.0	+0.2
06/11	+0.2	(+3.8)	+0.3	▲0.2	▲0.1	+2.2	+0.1	+3.7	+81.8	+80.2	+0.2

(出所) ＦＲＢ
(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は前月比＋0.2%と市場予想を上回った

06年11月の鉱工業生産は前月比＋0.2%とプラスとなった。鉱業、公益が減少に転じたものの、製造業がプラスに転じ、市場予想の同＋0.1%を上回った（９、10月合計で同0.2%下方改定）。ただし、３ヵ月移動平均・３ヵ月前対比年率で▲0.2%（前月＋2.1%）とマイナスに転じており鉱工業生産のモメンタムは低下している。

製造業は、ハイテクが好調を維持する中、自動車の拡大により前月比＋0.3%と３ヵ月ぶりに増加した。しかし、９、10月合計で同0.2%下方改定されたこともあり３ヵ月移動平均・３ヵ月前対比年率で＋0.1%（前月＋2.9%）と、製造業生産のモメンタムも低下している。米自動車メーカーでの需要鈍化、住宅需要の大幅な縮小を背景に自動車、家具等で生産調整局面入りしており、生産全体が抑制されている。

稼働率は、生産能力が前月比＋0.2%と拡大したものの、生産が同＋0.2%となったため81.8%と前月と変わらずとなった。製造業稼働率は80.2%と上昇した。

拡大した製造業生産は19業種中９業種に増加

業種別にみると、鉱業は前月比▲0.2%と減少した。公益は、天然ガスが同▲4.0%と減少に転じ、電力が同＋0.7%と上昇幅を縮小したため、全体でも同▲0.1%とマイナスとなった。

製造業は、前月比＋0.3%とプラスに転じ、拡大した業種数が19業種中９業種（前月７業種）に増加した。セクター別にみると、自動車関連の生産は、自動車部品が前月比＋1.9%、完成車が同＋6.6%と増加に転じたため、同＋3.7%と３ヵ月ぶりの拡大となった。一方、ハイテク関連は、コンピューターが同＋2.4%と鈍化したものの、通信機器が同＋1.0%と増加に転じ、半導体が同＋2.6%と加速したことにより同＋2.2%（前

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

月同＋1.8%）と拡大ペースが速まった。３ヵ月移動平均・３ヵ月前対比年率では＋33.1%と前月の同＋31.0%からさらに加速するなど好調さを維持している。

加えて、航空機部門の生産は前月比＋0.8%、前年同月比＋13.7%と好調に推移している。受注残の大きさから当面この部門の生産は、好調を維持するとみられ生産を下支えしよう。

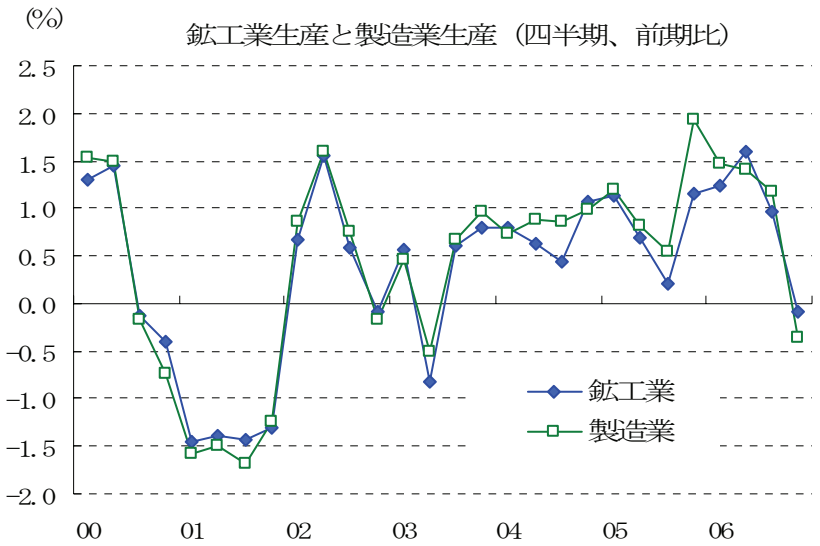
生産は当面緩やかな拡大にとどまる公算

四半期でみると、10、11月の鉱工業生産、製造業生産は自動車、家具、繊維等での生産調整によって、それぞれ前期比▲0.1%（７～９月期同＋1.0%）、同▲0.4%（７～９月期同＋1.2%）と減少している。今後、需要の鈍化、在庫の抑制によって2007年前半にかけて緩やかなペースでの拡大にとどまると予想される。

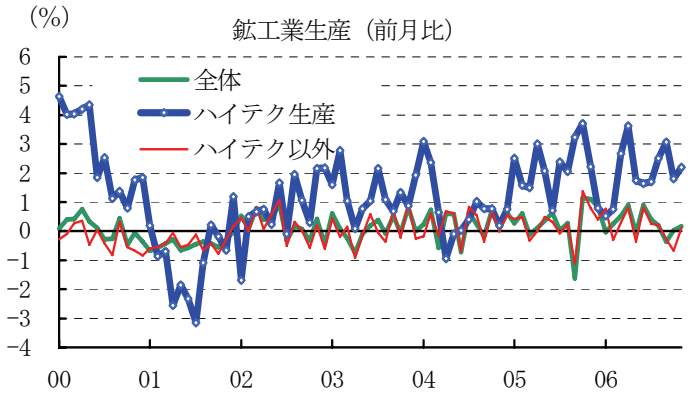
生産に影響を与える需要動向をみると、①コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、②稼働率の上昇、③オフィスビル空室率の低下、④コンピューターの更新投資等によって投資需要が強く、設備投資は2007年も好調を維持するとみられる。一方、個人消費が雇用・所得の増加が続くなか、住宅部門からの資金調達の拡大ペース鈍化等により前期比年率＋２%台後半の安定的な拡大ペースが見込まれる。

また、住宅投資がこれまでの金利上昇の影響で2007年１～３月期にかけて減少が続き、家計部門は緩やかなペースでの拡大が予想される。輸出は、ドル安効果によって押し上げられるものの海外景気の減速を背景に2007年前半にかけて緩やかなペースでの拡大が見込まれる。

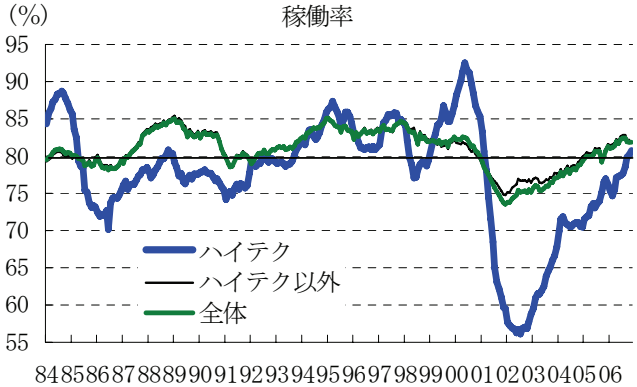
このような需要のもと、自動車や関連産業での在庫の削減が予想されることから、2007年４～６月期にかけて在庫投資は緩やかな拡大にとどまると見込まれる。



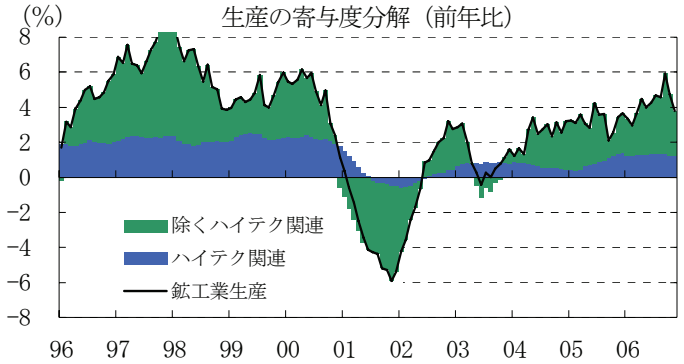
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



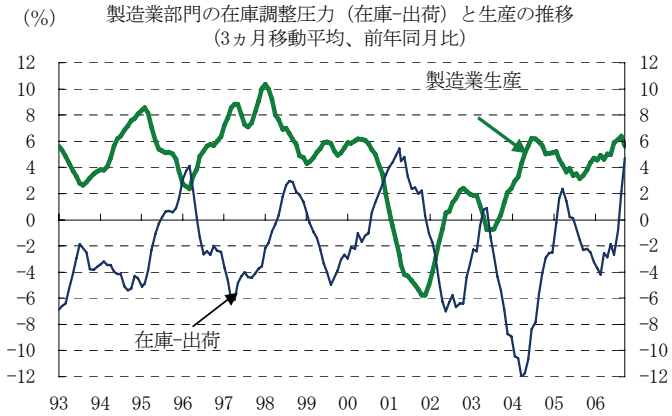
（出所）ＦＲＢ

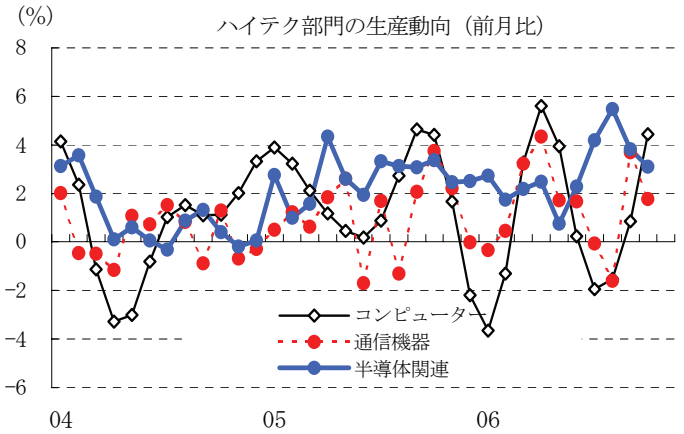


（出所）ＦＲＢ

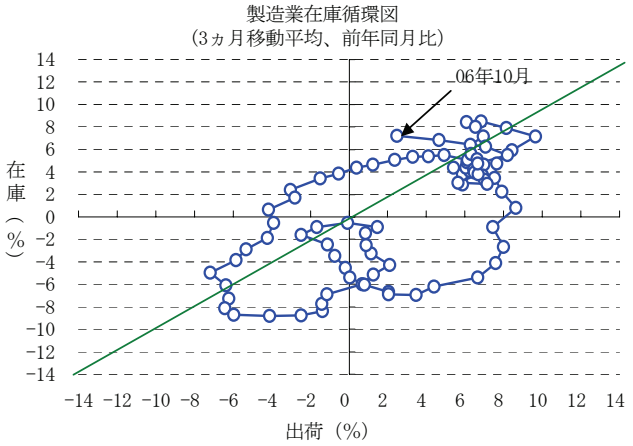


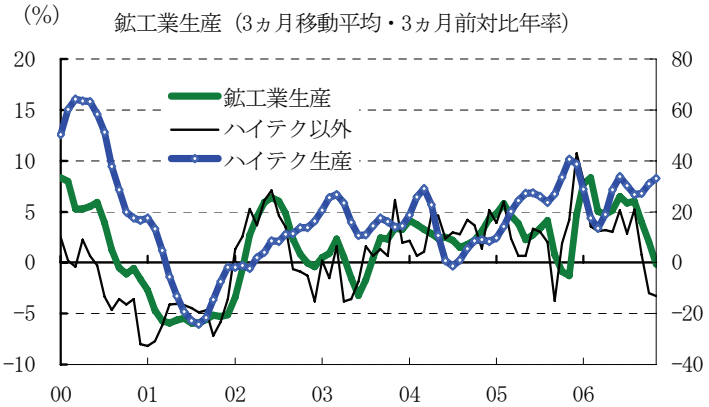
（出所）ＦＲＢ



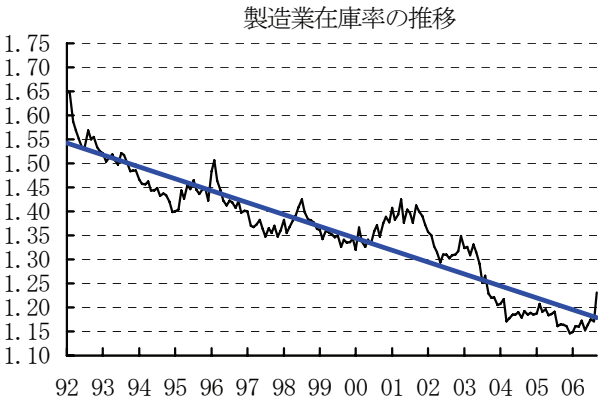


（出所）ＦＲＢ





（出所）ＦＲＢ



（出所）米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。